

「オアシス」が育てる人間力

学校生活の中で、「あいさつ」は人間力を磨く第一歩です。その基本を「オアシス」の四文字で考えてみましょう。

「オ」は「おはようございます」。一日の始まりを明るい声で迎えることで、教室の空気はやわらぎます。

「ア」は「ありがとう」。友達や先生への感謝を言葉にすることで、心の距離はぐっと縮まります。

「シ」は「失礼します」。教室に入るときや話しかけるときの一言が、相手への「敬意」を示します。

「ス」は「すみません」。間違えたときに素直に謝る姿勢は、「責任を引き受ける強さ」です。

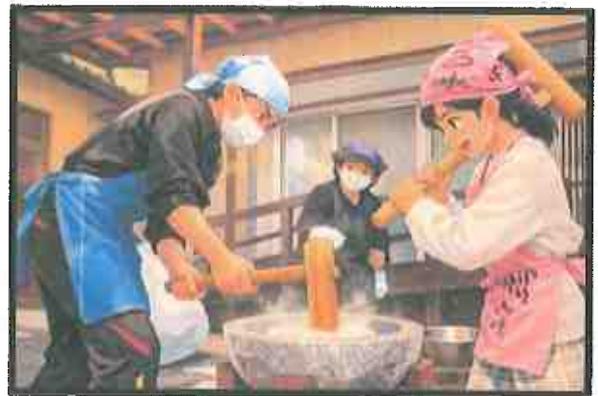
これらは単なる言葉ではなく、「思いやり」や「誠実さ」を形にした行動です。続けるほどに自分自身が成長し、周囲の雰囲気も温かくなります。

人間力とは、周りを明るくできる力のこと。あなたの一言が、教室という環境をより良くしていくのです。

今日の言霊：一言が場を変える

学校で交わす短い言葉は、小さく見えて実は大きな意味を持っています。

朝の声かけはその日の空気をつくり、感謝の表現は人との距離を縮めます。また、断りの一声は相手を尊重する態度を示し、謝罪は自分の行動に責任を持つ姿勢を育てます。



こうした積み重ねが信頼関係を形づくります。学力だけでなく、人との関わり方を身につけることが高校生活では重要です。

言葉は習慣になります。習慣は人格をつくります。そして人格は、クラスや部活動の雰囲気に影響を与えます。

自分の発する言葉が周囲を温かくも冷たくもすることを忘れず、日々のやり取りを大切にしていましよう。

【今回の学び】⇒言葉はその人の人格を表しています！

「オアシス」が育てる人間力

学校生活の中で、「あいさつ」は人間力を磨く第一歩です。その基本を「オアシス」の四文字で考えてみましょう。

「オ」は「おはようございます」。一日の始まりを明るい声で迎えることで、教室の空気はやわらぎます。

「ア」は「ありがとう」。友達や先生への感謝を言葉にすることで、心の距離はぐつと縮まります。

「シ」は「失礼します」。教室に入るときや話しかけるときの一言が、相手への「敬意」を示します。

「ス」は「すみません」。間違えたときに素直に謝る姿勢は、「責任を引き受ける強さ」です。

これらは単なる言葉ではなく、「思いやり」や「誠実さ」を形にした行動です。続けるほどに自分自身が成長し、周囲の雰囲気も温かくなります。

人間力とは、周りを明るくできる力のこと。あなたの一言が、教室という環境をより良くしていくのです。

今日の言霊：一言が場を変える

★問一（語句） 本文中の「敬意」とはどのような気持ちを表す言葉か。最も適切なものを選びなさい。

- ア 相手を見下す気持ち
- イ 相手を大切に思い、うやまう気持ち
- ウ 相手を恐れる気持ち
- エ 相手を疑う気持ち

★問二（内容理解） 「オアシス」の「ス」が表しているものとして正しいものを選びなさい。

- ア すぐに行動すること
- イ 進んで話すこと
- ウ 素直に謝ること
- エ 好きなことをすること

★問三（内容理解） 本文によると、「あいさつ」を続けることでどのような変化が起こると述べられているか。最も適切なものを選びなさい。

- ア 勉強の成績が必ず上がる
- イ 学校が静かになる
- ウ 自分も周囲も良い方向に変わる
- エ 友達が増えなくなる

★問四（主題理解） 本文で述べられている「人間力」とはどのような力か。十字以内で答えなさい。

★問五（記述） 「一言が場を変える」とはどういう意味か、本文をもとに説明しなさい。（100字程度）

模範解答・解説

★問一 模範解答 イ

○解説④ 「敬意」とは、相手を大切に思い、うやまう気持ちを表す言葉である。本文では「失礼します」という言葉がその気持ちを示すと述べられている。

★問二 模範解答 ウ

○解説④ 「ス」は「すみません」を表し、間違えたときに素直に謝る姿勢を示している。それは責任を引き受ける強さにつながると説明されている。

★問三 模範解答 ウ

○解説④ あいさつは自分の成長につながるだけでなく、教室の雰囲気も温かくすると述べられている。個人と集団の両方が良くなる点が重要である。

★問四 模範解答 周りを明るくできる力。

○解説④ 本文末に「人間力とは、周りを明るくできる力」と明示されている。定義を正確に押さえることが重要である。

★問五(記述) 模範解答(例)

あいさつなどの一言で教室の雰囲気が良くなるということ。

○解説④ 本文では、言葉は思いやりや誠実さを形にした行動だと述べられる。一言が周囲に影響を与え、場の空気を変える点をまとめる。

人生に軸となる「思い」を持っている人は、困難に直面しても簡単には折れません。

例えば、仕事で失敗したときに自分を責め続けるのではなく、「次にどう生かすか」と考え直せる人がいます。これは、心の中に進む方向が定まっているからです。

人生の目的とは、「どんな自分でありたいか」「何を大切に生きたいか」という問いへの答えとなると言い換えられます。それがあると、感情に流されにくくなり、判断にも一貫性が生まれます。結果として、自分自身の心が安定するだけでなく、周囲にも安心感を与えます。

誰かの役に立ちたい、家庭を温かい場所にしたいという思いも、立派な人生の目的です。自分のために定めた指針が、巡り巡って人の支えになる。そこに、目的を持って生きる本当の価値があります。



【今回の学び】⇒小さな志でも、人の行動を強く支える力となる！